



▼消防大会のポンプ車の部で優勝した第1分団第4部（岩下）の6人



第1分団第4部（岩下）が優勝

平成30年度上益城郡消防大会

7月28日（土）有安の安津橋健康広場横のヘリポートで平成30年度上益城郡消防大会が開催されました。

同大会は、郡内各町消防団の消防操法技術の向上と団結の強化を目的に、熊本県消防協会上益城郡支部（荒木泰臣支部長）が主催し、今年度は2年に1度の操法競技が行われました。

町消防団（松尾憲親団長460人）からは、小型ポンプの部に第1分団第6部（緑町）と第4分団第8部（府領）、ポンプ車の部に第1分団第4部（岩下）と第1分団第7部（北部）が参加しました。

ポンプ車の部で参加した第1分団第4部（指揮者・米原雄二さん、1番員・米角良真さん、2番員・甲斐敬大さん、3番員・大瀧啓司さん、4番員・岩崎雅和さん、補員・米村真さん）が見事に優勝し、9月2日（日）に山鹿市で開催される県大会へ郡代表として出場します。

自然に触れて心を豊かに

野外キャンプ「あつまれ子どもたち」

8月16日（木）～17日（金）坂谷の川平キャンプ場で、「あつまれ子どもたち」が開催されました。

同イベントは、野外体験を通して自然に親しむとともに、共同生活に取り組むことで団体行動の大切さを考えてもらうことを目的に、甲佐町青少年健全育成町民会議（奥名克美会長）と町教育委員会が主催。町内の小・中学生25人が参加しました。

子どもたちは1泊2日の体験学習で、川遊びやそうめん流しを楽しみました。



▲手作りの竹はしと竹筒でそうめん流しを楽しむ子どもたち



◀旧校舎を活用したカフェで食事する来場者

宮内で「夏山カフェ」が開催

旧校舎を活かした手作りの食事処

7月29日（日）宮内地区社会教育センター（旧宮内小学校）で、「夏山カフェ」が開催されました。

旧校舎を活かした手作りのカフェを、NPO法人自然楽舎みやうち（境国嗣理事長）の「パワフル母ちゃん」（栗林尚子代表）が企画。畑で朝採りした野菜を使った手作りのカレーやかき氷などが販売され、家族連れなどでにぎわいました。

来場者は食事を味わったり、元氣な「母ちゃん」たちとの会話を楽しんだりしました。訪れた若い女性たちは「子どものころに戻ったようで懐かしかったです」と話しました。

緑川流域の魅力を発信

7月29日（日）緑川フェスタが開催

7月29日（日）嘉島町の高田みんなの広場で「緑川フェスタ」が開催されました。

同イベントは、より良い緑川流域づくりについて議論することを目的として、流域自治体、県、国土交通省などから構成される緑川流域会議（田中洋丞会長）が主催。

会場では、「龍の舞・龍神太鼓保存会」（宮澄安一会長）などの各流域自治体のパフォーマンスが披露。流域のグルメが並んだ「緑川うまいもの市」では、「こうさんもん」認定商品も出店され、多くの人でにぎわいました。



▲会場で開かれた緑川うまいもの市には「こうさんもん」も出店



▲赤ちゃんや保護者と交流する生徒たち

子育ての楽しさと大変さを学ぶ

甲佐中生徒が乳幼児と触れ合い体験

8月3日（金）町総合保健福祉センターで、「ハローBaby」が開催されました。

同イベントは、思春期の中学生が赤ちゃんとの触れ合いを通して、子育ての楽しさ・大変さ、命の尊さを学ぶことを目的に、同センターが主催。甲佐中学校（服部起明校長230人）の生徒17人が参加し、赤ちゃんに関する学習と触れ合い体験などを行いました。

同センターの保健師の指導で赤ちゃん人形を使って抱っこなどを実習した後、「ピカピカ1歳教室」に合流。乳幼児と触れ合ったり、身体測定などを手伝ったりしました。

復興支援であゆまつりをサポート

甲府第一高（山梨県）の生徒9人が来町



▲復興支援ボランティアとして山梨県から来町し、あゆまつりの運営をサポートした甲府第一高の生徒たち

7月21日（土）開催の第67回あゆまつりに、甲府第一高（山梨県）の2年生9人が復興支援ボランティアとして参加しました。

同校生徒は、熊本地震からの復興に携わりたいとの思いから被災地の夏祭りの運営ボランティア参加を計画し、同校同窓会の基金を活用して来町。ボランティア活動を始めるにあたり、奥名克美町長が「熊本地震から2年が経つ今、運営をサポートしていただきありがとうございます。甲佐町とあゆまつりを楽しんで、夏の思い出にしてください」とあいさつしました。

生徒たちは、子どもみこしの進路案内やアユのつかみどりの受け付けなどの運営を汗だくになりながらサポート。総盆踊り大会には甲佐高校の生徒たちと一緒に参加し、甲佐の夏祭りを楽しみました。

ボランティアに参加した竹下珠生さんは「あゆまつりに参加して、いろいろな人と触れ合うことができました。今回学んだことを多くの人に伝えていきたいです」と話しました。



▼満員の会場で落語を披露する林家きく磨さん



林家きく磨さんによる落語会

町生涯学習センター自主文化事業

8月24日（金）町生涯学習センターで、「林家きく磨落語会」が開催されました。

同イベントは、町生涯学習センター自主文化事業の1つで、地域の文化的活性化を目的として町教育委員会が主催。

林家きく磨さんは落語家として2010年に真打に昇進し、現在は「くまもと大好き大使」としても活躍。きく磨さんが本町で落語会を開催するのは昨年の震災復興落語会に続き2回目で、会場に駆け付けた約120人の観客を前に落語を披露し、会場は大きな笑いで包まれました。

「母の生まれ故郷で再び落語会ができ、うれしく思います」と語ったきく磨さん。復興が進む本町へ向けて「日々の生活の中で楽しいことを見つけて、笑顔で過ごしてください」とエールを送りました。

落語を鑑賞した観客は「楽しかったです。落語を身近に感じられました」と笑顔で話しました。

災害時の行動を考える

災害図上訓練を実施

8月5日（日）町生涯学習センターで、災害図上訓練が行われました。

同訓練は、町民の防災意識向上を目的として町が主催し、一般財団法人消防防災科学センターの協力で開催。同センターの図上訓練指導員である鈴木光さん、森義徳さん、奥村聡一さんを講師に迎え、各区の自主防災組織などから36人が参加しました。

参加者は6班に分かれ、地域の危険箇所や避難場所を地図上に書き込みながら災害時の行動を考えるグループワークを行いました。



▲地図上に危険箇所などを書き込み対応を検討する参加者たち



◀「甲佐町未来塾」で英語の授業を受ける生徒

地域の協力で中学生の学力向上

甲佐中で「甲佐町未来塾」が開塾

8月1日（水）甲佐中学校で、「甲佐町未来塾」が開塾しました。

同塾は、地域の中学生の学力および教育力の向上を図ることを目的として開塾。教員を希望する大学生や元教員、学習塾などの民間教育事業者の幅広い協力を得て、同中（服部起明校長230人）の生徒に学習機会を提供するために町教育委員会が主催し、今年で3年目。

学習支援の調整役を担うコーディネーターを中心として、大学生や元職員などで構成される学習指導員と学校が連携しながら、数学と英語の2教科に取り組みました。

歯の健康を学ぶ

小・中学校保健委員が子育て相談を見学

8月24日（金）町総合保健福祉センターで、町内の各小・中学校の保健委員30人が「すくすく2歳児子育て相談」を見学しました。

同イベントは、各校の養護教諭などで構成される甲佐町学校保健会（岩下勇治会長）が子どもたちが歯の健康について学ぶことを目的に初めて開催されました。

同センターの保健師や管理栄養士、歯科衛生士が2歳児の歯磨きや食事の取り方などについて保護者に指導するのを見学し、歯の健康について学びました。



▲2歳児の食事と栄養指導を見学する保健委員の子どもたち

町生涯学習センターで開催された上映会



郷土芸能を後世に引き継ぐ

甲佐町郷土芸能上映会を開催

8月26日（日）町生涯学習センターで、甲佐町郷土芸能上映会が開催されました。

上映会では、後継者不足が懸念される郷土芸能を後世に受け継ぐことを目的に平成26年度に撮影された映像を公開。「糸田の大綱引き」「北早川の獅子舞」「旧宮内小学校と現甲佐小学校のボンドラ」「山出の獅子舞」「仁田子の雨乞太鼓」「龍野の龍神太鼓と龍の舞」の6つが上映され、来場した約50人が郷土の伝統芸能を鑑賞しました。

参加者は「町内にこのような芸能があるとは知りませんでした。これからも長く続くことを願います」と感想を述べました。

復興シンボルを作ろう

五輪エンブレム制作の野老さんによる教室開催



▲学生のサポートを受けながら、「人」の形をした木製のパーツを組み合わせて復興のエンブレムを制作する子どもたち

8月23日（木）町生涯学習センターで、震災復興のシンボルとなる「エンブレム」制作の体験教室が開催されました。

同イベントは甲佐地区災害公営住宅をはじめとする「甲佐町住まいの復興拠点施設」に掲げる復興のシンボルを作ろうと、日本財団わがまち基金と協働して芝浦工業大学（東京都）とKASEI（九州建築学生仮設住宅環境改善）プロジェクトが主催。講師に東京五輪公式エンブレムのデザインを手掛けた野老朝雄さんを招き、町内の小学生38人が同プロジェクトで活動する県立大学などの学生約40人と、「人」の形をした木製のパーツを組み合わせて復興エンブレムの制作を体験しました。

野老さんは「甲佐町のいいところを探して、甲佐町をイメージするロゴを作りましょう」と呼び掛け、子どもたちは緑川やアユなどを思い思いにデザインしエンブレムを制作。人の繋がりをイメージしたロゴを制作した龍野小6年の菊地こころさん（下横田区）は、「作っているうちに色々思い浮かんできて楽しかったです」と話しました。